

オリーブの会通信

2014年11月9日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会

〒760-0043 高松市今新町4番地20

連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)

<http://khj-olive.com/>



第149回月例会ご案内

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 2014年11月23日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~) |
| 場 所 | 香川県社会福祉総合センター 6階 (第1・2研修室) 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334 |
| 内 容 | ☆一部 13:30~14:30 「全国ひきこもり家族支援者交流会」 第9回愛知大会参加者による報告(感想など) 3~5人 14:30~15:00 「27年度に向けてのオリーブの会の動きと取組み」 知事への「要望書」提出について 役 員 15:00~15:15 休憩 ☆二部 15:15~16:30 グループ別話し合い |
| 参 加 費 | ・会員1家族 1,000円 ・一般の方 1,500円 ・当事者は無料 |

11月2日(日)名古屋ウインクあいち小ホールにおいて、全国ひきこもり家族支援者交流会第9回愛知大会が開催されました。(P6~7 関連記事掲載)

☆『変化するひきこもり支援』~多様な立場からの提言ということで、シンポジスト6人の方々がそれぞれの立場で話された。38歳の当事者代表の方の体験談から、親の会から居場所へどのようにしてつながったか：◎母親が親の会に出席するようになった ◎本人は嫌なことから逃げていた ◎真剣に受け止めていなかった のが、オレンジの会から電話、訪問などしてもらうようになって、放っておいて欲しいが ◎自分の問題と向き合わなければいけなくなった。居場所についても、①その場所に行くのが慣れていった ②落ち着ける場所があった ③何かすること、役割があったほうが継続して行けるようになった ④訪問される側からする側になった。そして人と人がつながっていけば、いろんな人から元気もらったのを、また次に分け与えることができる。

☆ひきこもりからの回復 新・若者の10ステップ(精神科医 中垣内正和)のなかで、最後のステップ10:=自分の経験をいまだ苦しみ悩むひとたちに伝えた=ポパイの会の若者のなかにも既に実践できている若者ができているのはうれしいことである。しかし、中途半端な形で当事者が支援者化すると事故や事件などに発展する恐れがあるとのピアサポーター研修への支援者の意見もある。また、親の会があることで家族の孤立を防ぎ、事件などの抑止になっているとの専門家の意見もある。私たちは決して専門家でないこと、ピアであることを忘れてはならないと強く思う。

【10月例会(10月19日)の概要】

☆座談

「鈴木 美登里さんと語ろう」

今回の例会は、時間的な制約があり NPO 法人 KHJ 名古屋オレンジの会の社会福祉士鈴木美登里氏をお招きし参加者全員が大きな円形となり座談形式による質疑応答を中心に行った。

鈴木氏は、中学3年から学校に行けなくなり、その後入学した高校も登校できず結局一学期で中退、家族との関係も悪くなり家出、長くひきこもり経験を有しています。現在は自分の体験を生かし、常にひきこもり当事者の目線で状況を理解し対応を考えるということを基本に長年に亘り様々なケースに対応してこられただけに、どんな質問に対しても即座に自分の考えや対処方法についての助言が出された。

— 質疑の一部を抜粋 —

○長くひきこもったまま「変化が感じ取れない」ことに親として焦りを感じる。事あるごとに、本人は自分がつまずきを経験した中学生時代の話に戻ってしまい、これからどうするか将来の話にはならない。

A 本人の心の中に言い得ない「憤り」の感情がまだ残っており時間をかけてそれを取り除いていく努力が親はじめ周囲の者に求められる。

また、周囲の状況と現実の自分とのギャップの大きさの前に、現実を見るということを回避せざるを得ないのではないかと感じさせられる。

川井理事長の報告、連絡

○ 香川県知事への要望書提出日程決定

かねてから、県当局と交渉を行ってきました当会からの香川県知事への「要望書」提出については、11月21日午前10時30分から知事室において直接知事に説明し提出できることとなりました。当日は、川井理事長、松本副理事長、泉理事の3名が以下の要望項目に関して内容説明にあたる予定です。

要望事項の7項目1. 県内に「ひきこもり」を専門とする医師・医療機関の確保について

2. 「居場所」活動に対する補助金の交付について
3. 相談活動に対する要望について
4. ひきこもり当事者及び家族に対する訪問活動（アウトリーチ）に関する要望
5. 「居場所」、「フリースペース」等を「地域活動支援センター」に位置付ける
6. 中間的就労支援に関する要望
7. 「社会的引きこもり」に対する啓発活動への補助金の交付について



(撮影 Kさん)



【ポパイの会】

「直島への遠足」 10月3日（金）地中美術館を見学

地中に造られた部屋に地上からの自然光を取り入れるという構造のため、曇り時々雨という天候が災いし、光と影のコントラストが弱く、ぼんやり薄暗い館内で、作品の印象もぼんやりしたものになっていたように思う。

いや、天候のせいだけではないかも知れない。集団で行動すると、集団に対して注意を払うため集団の外部にある作品に対する集中力が削がれやすくなる。言い換えれば集団というフィルターを通して外部と向き合うことになる。その結果、作品がぼんやりしてしまう。それが嫌で集団の外へ行こうとする。その結果、気が付けばひきこもり。それが私。しかし、いろんな作品と出会えたと、無駄ではなかったと思う。ただ、それを続けていると、自分自身も作品と化し、集団から見ると、ぼんやりした謎の存在になってしまう。 (Hさんの日誌より)

「森下さんを囲んでの交歓会」10月18日（土）

16時から、森下徹さんを囲んでの交歓会。急きょTさんが参加し、雑談が始まったがその内容に驚いた。テーマを絞らず雑談に終始したが、久しぶりに参加のKさんはそれが苦手なようだった。

また、イベントの話や28日に予定している、有志によるバーベキューの準備物についても相談した。 (Hさんの日誌より)

「秋のバーベキュー大会」10月28日（火）

収穫の秋、綾川町の畔田キャンプ場においてバーベキュー大会を開催した。当日は食材の買い出しにスーパーへ行った。適当に買ったが多く買い過ぎた。準備物については前以て話し合っていた

ので、スムーズに運んだ。集まった 11 名（内 2 名は母親）は絶好の秋日和のもとで、自家製のお芋はじめ野菜や果物が加わり豊かな食材をふんだんに使用して、ジュウジュウと焼き上がった美味しいお肉や焼きそばをお腹いっぱいいただくことができた。（当計画については、時間設定から出欠確認、準備物、買い出しと若者が積極的に関わってくれたことで開催することができたことに感謝。）



【2014/ 11・12 月 居場所活動予定】

*一部 1 月 予定も記載

| 内 容 | 月 | 日 | 曜日 | 時 間 | 担 当 |
|-----------------------------------|----|----|----|-------------------|-------|
| 2014 年度第 8 回運営委員会 | 11 | 1 | 土 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 川井 |
| 個人カウンセリング（松田先生） | 11 | 8 | 土 | 9 : 30 ~ 12 : 30 | 加藤W |
| ポパイの会（シイタケのホダ組立、 海岸で魚釣り - 庵治 - | 11 | 8 | 土 | 10 : 00 ~ 16 : 30 | 加藤 |
| ポパイの会 | 11 | 23 | 日 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 森下・加藤 |
| | 11 | 30 | 日 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 森下・加藤 |
| 2014 年度第 9 回運営委員会 | 12 | 7 | 日 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 川井 |
| 個人カウンセリング（松田先生） | 12 | 13 | 土 | 9 : 30 ~ 12 : 30 | 川井 |
| ポパイの会 | 12 | 4 | 木 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 森下・秦 |
| 2014 年度第 10 回運営委員会 | 1 | 4 | 日 | 13 : 30 ~ 16 : 00 | 川井 |

(注) 11/8 のポパイの会は、今里町の旧居場所の近くのマルヨシセンターの駐車場に 10 時時に集合し庵治へ出発です。また、①昼食弁当、魚釣りの②釣ザオ、③エサは各自で持参となりますからお間違いなき様に。

※平成 26 年 10 月 18 日に行われた第 5 回ひきこもりサポーター養成研修のうち第 1 部、中垣内正和氏の講義内容の概略を報告します。

（なお、第 5 回の鈴木美登里氏の講義内容、第 6 回<10 月 19 日開催>の講義内容についてはオーブ通信次月号以降に掲載の予定）



ひきこもりサポーター養成研修の様子 10/18 (I さん撮影)

【講義】

I. 「見立ての実践 ～ ひきこもりからの回復～」 (資料 A4-6 ページ)

講師：中垣内正和氏 (新潟「佐潟荘」副院長 精神科医・医学博士)

- 時代の変化は激しく、私たちはすぐに時代遅れになる可能性の中に生きている。ネット依存症が 400 万人といわれるこの時代に、「私はアナログ時代の人間」と言っているのは現代の若者とコミュニケーションが取れない。ひきこもりに関して言えば、ここにきて国策としてやっと本腰の施策が出されるようになってきた。私はひきこもりに関わりはじめて 15 年になるが、今皆様が研修されている「ひきこもりサポーター」という資格は、将来国家資格に結びつく可能性を有し、世代間のコミュニケーションをつなぐ大きな役割があると考えます。厚生労働省の作成した資料の写しを皆様に配布している。ひきこもり対策を効果的に推進するためには、①全国ひきこもり KHJ 親の会＝「**当事者団体**」、②ひきこもり地域支援センターなどの「**支援団体**」、③**厚生労働省・内閣府・都道府県・政令市・市町村**の 3 者が協力・連携していくことが不可欠であること、今後この線に従って具体的な施策が実施される方針であることが示されている。「全国ひきこもり KHJ 親の会」は、全国に展開する唯一の「ひきこもりの当事者団体」として国から認められた存在といえる。
- 最初に準備したものは、「ざ・みたて」という、皆様に見立てを行っていただくワークである。ここでは、8 個の病気と 2 つの病気に分類されない「状態」について、特徴的な症状・状況を私が述べ、皆様に医師の立場になって見立て(病名・状態を判断)を行なっていただく。準備した用語は、「うつ病」、「強迫性障害」、「社交不安障害」、「パニック障害」、「PTSD」、「統合失調症」の急性期と慢性期、「発達障害」、「摂食障害」、「自殺の危険」などである。採点方法が自己採点ということでホッとされたようであるが、数人の全問正解者がいたことをみると受講者の知識レベルは相当高いことがうかがわれる。
- 社会的ひきこもりと精神疾患は複雑に関連している。精神疾患が起因してひきこもりの状態になっているケースも少なくないが、背後の病気の存在が見落とされていることがある。逆にひきこもりが影響して精神面で二次障害をひき起こしていることもある。どちらが先かわからないこともある。
- 「ひきこもり」に対応する診療機関は全国で十指に余るまでに増えており、開業医や総合病院精神科に広がってきた。(一部の医療機関名・医師名を具体的に紹介)
- 私は「ひきこもり外来」の 15 年間で、ひきこもり当事者約 300 人と出会うことができたことから、ひきこもり当事者は外に出たいと思っているし、実際に外に出ることができると考えている。また、出てきた時点で、長期化・高年齢化は阻止できたということが出来る。継続的なサポートを行った場合に、社会参加の割合も上昇する。「労働政策」とか「短期決戦」とか「促成栽培」での対応は逆効果となる。
- 診療を受け、親の会と居場所を利用した当事者の 55%が就労、63%が就学しており、合わせて 79%が修学・就労での社会参加ができています。
- ひきこもり、社会的ひきこもりの違いは「精神病」も含むか否かであるが、家族の話だけからでは、ひきこもりサポーターにその違いがわからないことが多いのは勿論である。精神病がありそうときは、保健師とタイアップすることが必要となり、家族はその受診援助制度を利用することになる。(注；精神疾患のうち、幻覚妄想などを呈するのが精神病である)
- ひきこもりは回復するといえる。

- ・ひきこもりには出たい気持ちがあることは統計から明らかである。
- ・親の会・家族会、居場所、医療などの、できれば同日の連携が有効である。
- ・ひきこもりをとりまく環境は一変した。厚生労働省が「ひきこもりは社会の責任」と言う時代となり、親も支援者も変化すべき時が来ている。ともに学びと自己研さんを重ねて自ら成長していく必要がある。
- ・家庭訪問（アウトリーチ）は長期化予防のスタートとなる。家族を KHJ などの親の会へいざなう（誘う）ことができた場合には、事件化を防止することもできる。

○ひきこもりをとらえ直す必要がある

【誤ったとらえ方】

- ・落伍者、敗北者とみなし、何をするか分からないとか、極端な場合に犯罪者予備軍でもあるかのように錯誤する、家庭を内部から破壊する者と決めつけること。

【新しいとらえ方】

- ・ひきこもりには十分希望と可能性がある。古い生き方へのアンチテーゼ。
- ・本人は自分の生き方を模索しているに過ぎない。グローバル化社会、IT 社会への適応様式である。当事者は人材の宝庫であること。

最後に

○現代の精神医学のキーワードとなっているレジリアンス(resilience)という言葉を紹介する。レジリアンスは「復活する力」を意味し、それは人間の深い英知を示している。

レジリアンスを身に付けるためには、

- ・継続が大切、ピンチはチャンスに変わる。
- ・本音で語る、相手の語ることを傾聴する。
- ・ストレスを貯めない、トラウマは肥料にする。
- ・完全主義をゆるめ、「いい加減」（加減よく）に生きる。
- ・何事についても安易に判断をせず、決して決めつけない。
- ・適切に自己主張する。
- ・生き方の偏りを見直す。
- ・助けを求め、仲間をつくる。
- ・自己コントロールに心がける。
- ・守るに値する自分があることを自覚する。
- ・自己研さんと自己の成長に努める。

ことなどが大切となる。

○ひきこもりで悩めるすべての家族と当事者に対する支援を目指して、先行く親や当事者、支援者が協働すること、「産官民学」が協働・補完して、ひきこもり支援の活動を推進することは、新たな社会づくり、コミュニティーづくりの核になるといえよう。

— 講義要旨ここまで —

【お知らせ】

第9回愛知大会の参加報告

去る 11 月 2 日の両日開催された「第9回全国ひきこもり家族・支援者交流会（通称：全国大会）」開催

地：愛知一に、当会から 12 名（うち若者 3 名）が出席しました。

来年の大会（10 月 31 日・11 月 1 日）が、香川県で開催されることが決定していることから、今回の大会運営等を十分に学んでおきたいということもあり、この様に多数の参加者になったことを大変心強く感じます。

翌日（3 日）、同じ会場でもたれた全国 KHJ 支部長会議には議員である川井理事長のほか、傍聴者として松本副理事長、泉理事はじめ計 4 名が出席しました。

また、この日、別プログラムとしてもたれた「全国当事者交流会」として、「ひきこもり大学」が開講（主催：ひきこもり KHJ 全国親の会）され、香川オリーブの会ピアサポーター宮武将大さんが午前 9 時 30 分から 2 時間にわたり講師を務められました。このように、私たち香川の元当事者である（あった）青年達が全国大会の会に出席し多数の方々との交流、自らの経験を語ることを通して聴く者に希望と可能性への確信を与えるまでに成長・変化を遂げていることに大きな驚きと言い表せない感動を覚えます。

全国ひきこもり家族・支援者代表交流研修会 — 第 9 回愛知大会 —

| | |
|--------------------------|--|
| 日 時 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年 11 月 2 日(日) 「大会」 12:00～17:00 ・平成 26 年 11 月 3 日(月・休) 「支部長会議」 9:10～11:45 |
| 会 場 | 名古屋市中村区名駅 4-4-38 「ウインクあいち中ホール」 |
| 出席者 (敬称略) | (家族等) 家族・当事者・支援者・行政関係者・関心のある方 (参加者総数:264 名) (国) 荒川英雄(厚労省社会援護局総務課統括補佐)、日野 徹(同、課長補佐) (来賓) 愛知県知事 大村秀章 参議院議員 山本博司(香川県高松市在住) (シンポジスト(上記記載者は割愛)) <座長> 牟田武生(教育研究所所長) 半田有道(前厚労省安全衛生部長)、川北 稔(愛知教育大・大学院准教授)、 土田芳次(当事者家族代表)、Kさん(当事者代表) 「ひきこもり大学」池上正樹(ジャーナリスト)、伊藤美鳥 「兄弟姉妹の会」深谷守貞、神田映子(いずれも KHJ 本部) |
| プログラム担当者の主な方のお名前を記載しました。 | |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ・基調報告 「KHJ この一年の取組み」 ・シンポジウム「変化するひきこもり支援～多様な立場からの提言」 ・ひきこもり大学、兄弟姉妹の会 |

・当会（香川県オリーブの会）からの出席者の動向では、川井理事長は全国 KHJ 支部長会議で全国から注目を集めている、ひきこもりサポーター養成研修（香川県からの受託事業）に関して詳細な報告を行ったのははじめ、大会プログラムの中で、次回大会の開催地代表として大会開催の抱負を述べるとともに多数の参加を促すアピールを力強く行った。泉理事は大会及び同支部長会議でひきこもり問題を福祉の観点で考察した質問・提言を行い参加した国の行政担当官はじめ多くの出席者の注目・共感を集めた。また、松本副理事長は同支部長会議で、KHJ の呼称の新定義の必要性・緊急性を述べ、採決の結果以下の通り候補案が正式に決定した。

決定した新定義 : K (家族)、H (ひきこもり)、J (JAPAN)

ひきこもり対策研修会のご案内**—香川県精神保健福祉センター主催—**

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成 26 年 11 月 29 日(土) 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分(開場 13 時) |
| 会 場 | 香川県立文書館 2 階視聴覚ホール 高松市林町 2217 番地 19 |
| タイトル・講師 | 「トンネルを歩き通すために」 民間非営利相談機関「ヒューマン・スタジオ」代表 (元ひきこもり経験者) 丸山康彦 氏 |
| 申し込み | 11 月 21 日(金)までに FAX で … 087-835-5474 名前(フリガナ)、住所、電話番号を記載 |
| 参加費 | 無料 |
| 問い合わせ | 香川県精神保健福祉センター TEL:087-804-5565 (細谷・出口・村上さん) |

心理臨床相談室のご案内**—香川大学大学院教育学研究科—**

| | |
|------------------------------|---|
| 受付時間 電話直通 087-832-1074 | 月曜日 13:00～16:00 水・金曜日 9:00～16:00 ※上記以外の時間帯は留守番電話にて、お名前、ご連絡先、連絡を希望される時間帯をお伝え下さい。後日折り返しご連絡いたします。 |
| 相談曜日 時 間 | 月曜日～金曜日 9:30～17:50 ※原則として上記の曜日ですが、詳細は担当者と相談の上、決定します。 ※祝日、年末年始の 2 週間、8 月中旬(お盆)の 1 週間は、お休みさせていただきます。 |
| 相談内容 | ○ こどもに関する悩み (発達面で心配なこと、落ち着きがない、友だちとうまくいかない、こどもにどう接したらいいかわからない、子育てで悩んでいる...等) ○ 学校や職場についての悩み (学校、職場に行きたくない、いじめなど...等) ○ 対人関係についての悩み (夫婦や親子関係、友人関係...等) ○ 心身の悩み (不安、無気力、気分の落ち込み...等) ○ 自分の人生・性格・行動のこと (自分に自信が持てない...等) |
| 大学院生担当 | <input type="checkbox"/> 初回面接・・・3,000 円 <input type="checkbox"/> 継続面接(カウンセリング・プレイセラピー)・・・2,000 円/1 回 <input type="checkbox"/> 心理検査・・・2,500 円/1 種類 |

・リーフレットは、今新町オリーブの会の居場所にも置いてありますので、ご自由にお取りください。

・ホームページも開設されています。(高松市幸町 1-1 香川大学教育学部内 ホームページの地図をご参照ください)

アドレスは <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~rinsyou/>